

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200028		
法人名	特定非営利活動法人 だいこんの花		
事業所名	NPOグループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成24年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2190200028-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念に基づき本人を尊重し毎日を穏やかに過ごして頂けるよう支援している。
 ・本人の希望を取り入れながら、1日の生活リズム、活動と休息のメリハリをつけるよう一日数回の散歩や、外出、また毎日午後から1時間レクを行うようにしている。
 ・管理者、ケアマネ以外の職員にも外部、内部研修に参加してもらうなど自己研鑽している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な中でその人らしさを大切にしたいケアが実践できるように、理念を書き目のつく所に貼って振り返っている。事業所の行事には地域の方や中学生などの参加があり、顔馴染みとなって、散歩時に気軽に声かけや挨拶を行っている。管理者は、利用者・職員の状況を毎日把握して、速やかに対応が出来るように努めている。家族や馴染みの人との繋がりを大切にしており、家族や友人達の訪問も多くある。何でも話しやすい関係を作り、要望・意見を取り入れた計画書を作成して、利用者が安心した生活が送れるように支援をしている。また、個々のペース・レベルを大切に食事・排泄・入浴などを急かさないうように声かけにも十分に注意を払っている。利用者と一緒にちぎり絵を作り、それを季節ごとに共有空間に貼り出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	季節の行事には地元の婦人部の方に手伝っていただいたり、音楽グループの方に演奏をしてもらって参加してもらっている。	理事長の介護の経験から理念を作り上げ、職員全員で家庭的な中で、その人らしさを大切にしたケアの実践を行っている。職員の目につきやすい所に理念を貼り、会議等で理念について話し合いを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で、顔なじみの方たちと挨拶を交わす程度になっている。行事の際には積極的に地域の方に参加してもらうようにしている。	事業所の行事には地域の方や中学生などの参加がある。また、散歩時に挨拶をする事で近隣の方と顔見知りになり、見守られる信頼関係が作られた。しかし、利用者が地域の行事に参加をする機会が少ない。	近隣の方々との関わりだけではなく、地域・自治会との繋がりを持って、行事等への参加がしてもらえるように、さらなる働きかけに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして職員が市からの依頼で講座のお手伝いに行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近況報告、今後の予定等を報告しているが、家族からは遠慮されているのか良い意見ばかりで率直な意見が聞けないのが残念。	事前に課題・要望等をたずね家族全員が順番に会議に参加が出来るようにした。行事の報告、家族からの質問や行政からのお知らせなどを議題とし、それを会議で話し合っサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月の運営推進会議に市の担当職員が参加してくれている。	市の担当が変わるときには、担当者が挨拶に来て相互に顔馴染みになっている。職員は申請書類関係・権利擁護・生活保護関係の事などで、市担当者に対して気軽に相談することができる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は玄関の施錠をしているが、日中は施錠をせずいつでも出入りが出来るようになっているが、散歩等を希望される時は必ず職員が同行し見守りは行わせてもらっている。	管理者は拘束に関して理解をしている。しかし、言葉かけ・行動に細心の注意は払っているが、職員間での勉強会・研修会などの機会が確保されていない。また、同意書はあるが、拘束の期間・その後の経過報告などの書類が整備されていない。	内外部の研修会などに積極的に参加をして、職員全員の間での共通の認識を持ちまた、拘束に対しての現状・理由・期間等の書類の整備とケース会議の開催の検討を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を受講し、ミーティングで職員に伝え、事業者内で虐待が発生しないよう普段から努めている。		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受けているが、活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族と話し合い、契約時に書面にて説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用する方はない。また、運営推進会議で聞かれた意見、要望は職員に伝えている。面会時に、職員に気軽に話を出来る家族もあり、職員に伝え反映している。	家族に事業所に来てもらうために、介護費用を事業所での現金受取りにしている。受取り時に極力家族の方に話しかけ意見や要望を聞いている。衣替えの時期や洗濯の回数などの細かい要望も聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を聞き、話し合い反映している。提案、意見があるときは都度相談をしている。	月に1回のミーティングには管理者・理事長・代表者も参加し意見交換を行っている。また、管理者は、毎朝のミーティングの報告、休みの日にも連絡を入れて必ず毎日の状況把握に努めている。意見により風呂場の手すりやシフトの見直しをした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修などには積極的に会社負担で参加してもらい意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内外研修に積極的に参加するように配慮している。また、外部研修は勤務として参加出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入しているが他のGHとの交流はない。関市居宅介護連絡会に参加し他の施設との交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴などを含め心身の状態、希望を家族、本人から聞き取り施設での生活を安心して送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活歴などを含め心身の状態、希望を家族、本人から聞き取り施設での生活を安心して送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでどんな生活を送って頂けるかを考え入居して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする中で、入居者は人生の先輩である事を意識して尊厳を守り「介護している」ではなく「介護させて頂く」の気持ちで接している。また、掃除、調理にも参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話、通信等で本人の状況を伝え、面会時にはゆっくり過ごして頂いている。家族との外出時は話を聞き本人の様子を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親戚、友人の面会があるのは限られた入居者である。家族との外出の機会は大切にし継続できるよう努めている。ドライブなどの外出では思い出の場所に行ったりしている。	申込み時に今までの生活歴、本人・家族の要望等を十分に聞き、それまでの関係が継続できるようにしている。友人の家に行ったり、手紙のやり取りを手伝ったりして、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で談話する姿も見られるが、特定の入居者が孤立しないよう職員が間に入ったり、話題を提供することで皆との関わりが持てるよう支援している。また、無理に協調させることのないよう個人に合わせることも大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年度から退去した方が死亡であり事例がなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が出来る方の希望、要望は本人との会話から把握することが出来ているが、困難な方は表情を見ながら検討している。	その人らしさを大切にし、普段の会話や表情、振る舞いから利用者の思いをくみ取っている。また、気づいた事を職員がノートに記録し、家族からも情報を取って、利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にセンター方式の記入を依頼している。それを職員で共有しながら、コミュニケーションに活かしている。また、家族にもどんな風に過ごしていたのかを聞いている。入居後家族の面会時の話から情報を得ることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、また本人の状態に合わせて入浴、休息をすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からは面会時等に話を聞いたり、職員間では日常的に出てきた課題をミーティング時に話し合い、介護計画を作成している。	利用者、家族の思い、考え、意見を反映して介護計画を作成している。状態が変わりやすい利用者には短い期間で見直しを行っている。介護計画は訪問時の家族に説明をして意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に添うことが出来るよう努めている。(外出、帰宅、受診)		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の舞踊グループの方や音楽演奏の方たちに行事で慰問を依頼することで、地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の往診を行っている方がほとんど。家族通院が困難な方は往診してくれる医院に変更した方もある。	入居時に、担当医師をかかりつけ医から内科医と神経内科医の協力医に変えてもらい、訪問診療及び往診は協力医にお願いしている。緊急時には職員が病院まで同行し、いつでも適切な治療が受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした変化でも感じたことは記録や口頭で看護師に伝わっている。受診の要・不を看護師が判断している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院まで医療機関の相談員と連携を図っている。カンファレンスなどにも積極的に参加し退院後に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で当ホームでは看取りを行っていないことを伝えてある。重度化、終末期について地域と支援していることはない。	看取り・重度化した場合の事業所の方針を入居時に利用者等に説明をして、了解を得ている。状態が悪くなった時は、家族・医師と相談をしながら、出来る限りの希望を叶える方向で支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請の手順は確認している。怪我の際看護師の支持を仰ぎ管理者と連携をし緊急時の連絡方法も徹底し連絡しやすい電話のところに貼り連携の取りやすいように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っているが一部の職員で実施しているので今後は全員に周知していきたい。地域の方の参加を促し協力体制の出来るよう今後の訓練の予定をしている。	住民の方の協力が得られるよう声かけを行い、消防署の立会いのもとに、夜間想定をして、避難訓練を行っている。備品は、米、オムツ、簡易トイレを確保している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩で敬って援助していくと理解しているが、言葉かけに感情が入っている時があるのでお互い声掛けをし注意しあえるよう体制の必要がある。	人生の先輩として敬う気持ちを大切にし、トイレ・入浴誘導時等の言葉かけに注意を払っている。ケアの中で口調が強くなってしまわないようお互いに声を掛けあい、会議時に話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな時でも言葉かけを重要にし入居者様の意見を聞き援助にあたるように努める。無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の暮らし方を毎日聞くことはないがそれぞれのペースなどに合わせた生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時には、本人にどれが良いか聞きながら介助している。入浴後の整容時はドライヤーを使いセットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際は、季節の物や要望を取り入れるように心がけている。食材を切ったり、食後の片付けなどに時々参加してもらっている。食事は毎食楽しまれている。	簡単な下ごしらえや片付けを一緒に行っている。利用者と共に食事し、出来るだけ自分で食べられるようさりげない声かけをしている。また、週に2回手作りのおやつを出し、誕生日会には希望の献立を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作る際は、肉、魚、野菜のバランスを考慮している。また、個々の状態に合わせて食べやすいように工夫している。水分は、決まった時間以外にも散歩後や訴えがあった時など柔軟に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助と、1日1回の義歯消毒、週1回歯科クリニックの往診による口腔ケアを行っている。		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、誘導が必要な入居者は声掛けしトイレにて排泄してもらっている。	リハビリパンツや尿とりパットを使用しているが、時間ごとにトイレ誘導を行いトイレでの排泄に努めている。ポータブルトイレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症の方を不穏にさせることを理解し、便秘が続くことのないよう飲み物等で調節したり薬の調整を主治医と連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴でだいたい午前中に行っている。時間、曜日は一日起きに実施できるよう配慮している。本人が希望しないときは強要はしていない。入浴中はゆったり、その人のペースを大切にしている。	利用者4人と利用者5人の交代制で1日置きに入浴をしている。午前中に入浴が基本であるが、嫌がる場合や体調が悪い場合には時間をずらしている。また、希望により入浴日を翌日に回すこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、昼食後の昼寝等適度な休息を必要方には促している。また、夕方以降は夜間の安眠に繋がるよう興奮しないよう穏やかに過ごせるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報を載せているが、全職員が全ての薬までは把握出来ていない。支援の状況は誤薬のないようセット、服薬時の確認を行っている。不安定な方の安定剤調整では変化を細かく記録し医師に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、掃除への参加を日課にし、張り合いを持って頂き、また、午後からのレク、外出、ドライブで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望する方には1日数回行っている。季節を感じる外出をレクリエーションで計画し季節感を味わっていただいている。利用者様にはテレビや話の中で季節を把握し外出を楽しみにしていただこう配慮している。	毎日、職員と一緒に散歩をしたり、買い物に出かけたりしている。月に1回、家族の協力を得てお墓参りに行く利用者もいる。全員参加での花見・紅葉狩りなど、季節ごとの行事を実施している。	

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に紛失の責任はとれない旨了解して頂き、本人が少額を持っている方もある。簡単な買い物に行くと「何も買わずに出れない。」と買う人もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む家族からの贈り物が届いた時には電話を掛けたり、手紙を書く事を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今には季節を感じるカレンダーや花等を置いたりしている。座る場所によって日当たり、風当たり、明るさが違うため同じ空間にいて感じ方が違う時の対応が難しい。また、職員の声が雑音となっているのでお互いに注意し気づくようにする。	玄関、廊下には行事などの写真、季節のカレンダーなど色々なものを貼り出して、利用者の目を楽しませている。また、利用者のいる居間、食堂と職員の事務室が近く、利用者に対する対応が素早い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大ききの違うソファに気の合う人同士が腰を掛けゆったりと過ごしている。大勢で腰掛けるときはトラブルにならないように気配りをしている。また、廊下にある椅子にふいに腰掛け過ごす方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを居室に飾っていたり、入居時に話をするが新しいものを買入する方が多く入居してから家にあるものを持ってきていただくよう言葉かけはしている。	使い慣れた物や大切な物が必要な訳を説明し、家族の協力を得て筆筒・衣装ケース・人形などを持ってきてもらっている。また、利用者が動きやすいように、個々に、筆筒・ベッド等の配置の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札を貼ってあるが、それを認知することが出来なく他室に入る方もあるが、そっと職員が付いて誘導している。入居者の安全を考慮して支援している。		